

(2) マルハナバチ媒花の繁殖への悪影響

北海道門別・平取町でセイヨウオオマルハナバチの盗蜜が
確認された植物

キンポウゲ科

セイヨウオダマキ

マメ科

クサフジ

ベニバナインゲン (ハナマメ)

インゲンマメ

ムラサキ科

ヒレハリソウ

スイカズラ科

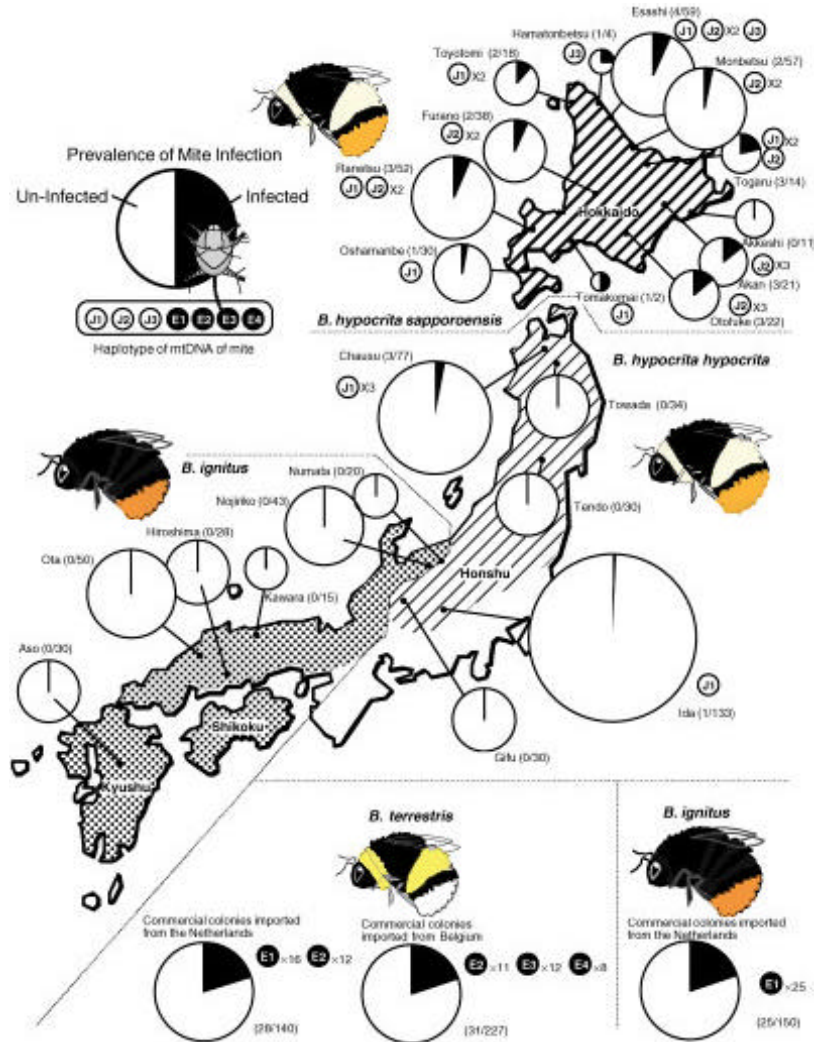
クロミノウゲイスクグラ

ツキヌキニンドウ



(3) 外来寄生生物の随伴移入

マルハナバチポリプダニ



ヨーロッパ型と日本型はミトコンドリアDNAで区別可能

海外で育成されたクロマルハナバチにはヨーロッパ型のダニが感染



国内でも野外からヨーロッパ型のダニが検出された

オランダのマルハナバチ生産工場では日本型のダニの蔓延が始まっている (五箇, 2002)

この他, マルハナバチに寄生する生物は100種を越えるとされるが, 現行法ではこれらに対する検疫の義務はない。

(Goka et al., 2001)

(4) 在来マルハナバチ類との交雑 / 繁殖攪乱

- 1) セイヨウオオマルハナバチは、同じ亜属の在来マルハナバチ類 (オオマルハナバチ, クロマルハナバチ) と交尾を行う
- 2) 実験条件下では雑種形成が確認されている。
(Mitsuhata & Ono, 1996)
野外ではまだ確認されていない。
- 3) 異種間交尾によって発育できない受精卵が形成され、在来種の繁殖を阻害してしまう可能性が高い。
(丹羽他, 日本生態学会第50回大会)

セイヨウオオマルハナバチの野生化に伴う 4つの問題点

- (1) 在来マルハナバチ類との競争 (営巣場所 ,花資源)
可能性がきわめて高い。野外での実証的なデータを得ることが急務。
- (2) マルハナバチ媒花の繁殖への悪影響
盗蜜の影響は無視できない。今後影響を受ける種が増える傾向を懸念。農作物への影響も考慮する必要がある。
- (3) 外来寄生生物の随伴移入
すでにマルハナバチポリプダニでは現実のものに。他の寄生生物も含め、実態調査と在来種への影響の評価が急務。
- (4) 在来マルハナバチ類との交雑 / 繁殖攪乱
交雑に由来する受精卵が発育しないことで、在来種の繁殖を阻害する可能性が大きい。野外での異種間交尾の実態の把握が急務。

セイヨウオオマルハナバチの野生化防止のために 求められる対策

コロニーの輸入から処分までの完全追跡

使用に際しては、封じ込め使用（温室から逃げ出さないようにネットを張るなど）の義務づける

常時モニタリングすることによる野生化の徹底した監視、
巢の発見を中心とした野生化個体群駆除を、受益者負担
で実施